

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01315

研究課題名（和文）1950年代、中国共産党権力の社会への浸透とその矛盾に関する共同研究

研究課題名（英文）Joint research on the penetration of Chinese Communist Party power into society in 1950s

研究代表者

山本 真 (YAMAMOTO, Shin)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：20316681

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：中国近現代史研究、中華人民共和国史研究を発展させるために、1950年代における共産党権力の社会への浸透の様態を研究した。また社会各群体による党権力の浸透への反応・対応も検討した。さらに党権力が社会に浸透する過程で新たに発生した諸矛盾にも注意を向けた。これにより、1950年代後半から60年代に顕在化する政治的・社会的問題と1950年代に実施された諸政策との因果関係を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国現代史での共産党中心史観の相対化が進むにも拘わらず、依然研究が手薄である人民共和国成立初期の1950年代に対象を絞って研究を行った。中国全土を長期にわたり統治する基礎を共産党が築いたのがこの時期である。しかし、その後1950年代末の大躍進や1960年代の文革期において、国家と社会は大きな混乱に直面していく。ゆえに、この曲折の歴史を多面的にかつ深く理解するためには1950年代初期から中期までを、権力浸透とそこで胚胎した矛盾が複合する過程と捉え、批判的視角から再検討することが有効である、この課題を遂行した本研究は中国現代史研究に裨益するところ大である。

研究成果の概要（英文）：In order to develop the study of modern Chinese history and the People's Republic of China, We studied the mode of the penetration of Communist Party power into society. We also examined the reactions and responses of social groups to Party power. Our study also drew attention to the new contradictions that arose in the process of the penetration of Party power into society. This highlighted the causal relationship with political and social problems that emerged from the late 1950s onwards.

研究分野：中国近現代史

キーワード：中国 中国共産党 1950年代 農村

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1990年代から2000年代初頭まで、東京の中国現代史研究会による国民政府研究の一連の共同研究(姫田光義氏代表『戦後中国国民政府史の研究 1945 - 1949年』、石島紀之・久保亨氏代表『重慶国民政府史の研究』、久保亨氏代表『1949年前後の中国』)に参加し、共著論文を発表してきた。これら共同研究により、1927年から1949年までの南京国民政府史、重慶国民政府史、日中戦争後の国民政府史の全体像は相当程度解明されたといえる。

その後は一橋大学の故三谷孝氏の農村調査『中国内陸における農村変革と地域社会』に参加し、山西省農村での聞き取り調査の経験を積んだ。これと並行して科研若手研究(B)や科研基盤研究(C)の資金を受領し福建省での現地調査を続け、2016年に単著を刊行した。このように国民政府研究だけでなく共産党の革命と地域社会との相互関係についても研究を深めてきた。さらに日中戦争から朝鮮戦争時期までの戦時態勢下での社会変容については、奥村哲氏や笹川裕史氏を中心とする中国基層社会研究会のプロジェクトに参画する機会を得た。奥村・笹川氏による共同研究への参加を通じて、日中戦争から1950年代初頭までの戦時態勢が中国政治や中国社会の変容に多大な影響を与えたとの認識を深めることになった。この戦時態勢への関心に基づき2015年に申請した科研基盤研究(C)では、1950年代以降の冷戦下において国民党と共産党の対立の最前線となった台湾海峡の金門・馬祖島(福建省に属す)での戦時態勢と社会変容を、現地調査の方法により研究を推進してきた。

以上のように、日本の中国近現代史研究は、共同研究を軸にして、民国から朝鮮戦争時期へと着実に研究領域を拡大・深化させてきた。その一方で、1960年代の文革研究については、その実相が我が国に漏れ伝わって以来、現代中国を研究する政治学者や社会学者、文学者が大きな注意を向けてきた。しかし、1950年代前半から中期を対象とする研究は歴史学研究と現状分析的研究の狭間に落ち込み、手薄なままに取り残されている。今日中国の台頭が著しいなか、共産党独裁体制とそれに支配される/下支えする中国社会の特性を理解することが我が国の中国研究にとって喫緊の課題となっている。それゆえ、1950年代の再検討は、近現代史研究の蓄積と文革研究などの現代中国研究の成果とを有機的に連結させる役割を果たし、人民共和国史研究の全体像提示に貢献すると考えたのが本研究の着想に至った背景である。

研究代表者はこれまで、国民政府研究及び朝鮮戦争までの中国戦時態勢研究に参加してきた。その成果を基礎に新しい時期を対象とした共同研究を推進しようとした。また研各種研究会・共同研究で培った人脈を活用することにより、本研究遂行に必要な業績と能力のある研究者に呼びかけて研究組織を立ち上げた。以上が本研究の背景である。

2. 研究の目的

本共同研究では、中国現代史に関する内外の研究動向を踏まえつつ、実証的かつ自由な議論を通じて、共産党による社会・民衆支配の仕組みと矛盾についての新たな理解を提示することを目的とした。研究対象の時期は、中国現代史での共産党中心史観の相対化が進むにも拘わらず、依然研究が手薄である人民共和国成立初期の1950年代に絞った。この時期に対象を絞った理由は以下のようなものである。中国全土を長期にわたり統治する基礎を共産党が築いたのがこの時期である。しかし、その後1950年代末の大躍進や60年代の文革期において、国家と社会は大きな混乱に直面していく。それゆえ、この曲折の歴史を内在的に理解するためには、共産党自身の叙述からは距離をとり、1950年代初期から中期(朝鮮戦争から社会主義化、農業集団化の時期)までを、権力浸透とそこで胚胎した矛盾が複合する過程と捉え、批判的視角から再検討する必要がある。共産党権力が基層社会にいかにか/どの程度浸透したのか、党権力は本当に「隙間無く」社会に浸透したのか、そこに地域差や社会群体間での差異は存在したのか、民衆はどのように新たな権力に向き合ったのか、党権力の浸透がいかなる矛盾をもたらしたのか、それが後の大躍進運動や文化大革命の混乱とどういった因果関係をもったのかなどを問いかけ、次に述べる研究方法によりこれに答え、中国における共産党統治に新たな理解を提示することを目指した。

3. 研究の方法

研究の方法は個別研究の羅列ではなく、実績ある研究者による共同作業、文献分析と現地調査である。1980年代以来、中国近現代史の領域では中華民国史の領域において共同研究の成果が蓄積され、今や朝鮮戦争時期にまで研究の射程は伸長しつつある。他方、1960年代の文革研究も政治学や社会学、文学の領域での業績が少なくない。しかし、共産党が全国の基層社会への権力浸透を進めた1950年代前期から中期は、両者の狭間において研究の進展が遅れている。もちろん、個別の研究は徐々に進展する傾向にあり、プロジェクトとしても京大人文研で「毛沢東に関する人文学的研究」が、慶応大学東アジア研で毛沢東時代の個人史・生活史の研究が試みられている。しかし党権力の浸透とそこで胚胎した矛盾とを、地域間の社会構造の比較や都市と農村間の比較を踏まえて、総合的に解明する試みは無く、共同研究の方法でここに踏み込むことに本研究の独自性を設定した。

研究組織は、1950年代研究の遂行能力をもつ研究者に広く呼びかけて編成した。申請者の意図を十分説明することで、分担者に予め具体的な研究目的・方法、利用資料を提示してもらった。分担者12人、協力者1人のなかには女性研究者5人、中国人研究者3人を含め、ジェンダー比率や国籍の多様性にも配慮した。さらに、個人研究を5つの「テーマ群」に分類し、群内部での比較、群相互間の比較、そして総合的議論を段階的に実施した。5つのテーマ群とは以下のものである。中国各地の農村社会構造が権力の浸透に与えた影響についての比較研究、すなわち、広大な領域と社会構造の多様性を中国の特性と捉え地域偏差に留意し、権力浸透を比較検討する。東北社会への中共権力の浸透：都市と農村、漢族地区と少数民族地区との比較。ここでは、共産党の全国制覇の拠点となり、重工業の先進地帯でもあった東北地区を対象として、都市と農村、漢族と朝鮮族地区での党権力の浸透と民衆の動向をインテンシブに比較検討する。軍事、司法を通じた中共権力の浸透の研究。ここでは、軍事管制や司法という党・国家権力の暴力的・強制的な側面から権力浸透を研究する。経済（流通）及び衛生の管理を通じた党権力の浸透の研究。ここでは、流通や衛生など、民衆生活に密接に関係する領域の管理を通じた権力浸透を検討する。子ども、青少年、女性などの社会群体への権力の浸透と動員。ここでは、子ども、少年層や女性などの従来政治から遠かった社会群体への思想教育を検証する。

4. 研究成果

【共同研究の経緯】

2019年7月に開催した第1回科学研究会では、分担者が自らの研究構想を発表するとともに、本科研メンバーの多くが参加していた中国基層社会研究会の先達である奥村哲氏からマクロな研究視角を提示いただいた。さらに同年11月下旬には国際ワークショップを開催し、北京大学の李秉奎氏（中国現代史）、台湾中央研究院の陳耀煌氏（共産党史）に1950年代に関する具体的なテーマを報告してもらった。加えて、中国現代史研究会・中国基層社会研究会の大先輩である石島紀之氏には、戦後日本の中国研究を回顧いただいた。これにより、先人の成果をいかに次世代が継承し、未来を切り開いていくのかという学界全体に関わる大きな課題について、来会者とともに議論することができた。2019年度7月と11月の会議の報告と質疑応答の内容については、2020年3月に編集作業を行い、『国際ワークショップ 1950年代、中国共産党権力の社会への浸透』（山本真（研究代表）日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究課題 19H01315「1950年代、中国 共産党権力の社会への浸透とその矛盾に関する共同研究」初年度成果報告書）にまとめ、冊子として印刷発行し、国立国会図書館、筑波大学図書館などに寄贈することで、社会に公開した。

さらに、2022年10月には、『ワークショップ 1950年代、共産党権力の浸透と農村社会』（2019年度～2021年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(B)）課題番号 19H01315「1950年代、中国共産党権力の社会への浸透とその矛盾に関する共同研究」研究成果報告書 第2集）として印刷発行し、国立国会図書館、筑波大学図書館などに寄贈することで社会に公開した。

その一方で、本プロジェクトは1年目から多くの困難に見舞われてしまった。2019年8月に香港での抗議デモが激化し、空港の利用が不安定化したため香港での資料収集が実施困難となった。さらに10月には、北京で日本人研究者拘束事件が発生した。この影響で、中国での国際会議参加や研究活動に不安を覚えざるを得なくなった。

その後、2020年3月1日には科研メンバーが東京に集まり、本年度の研究成果について意見交換する予定であった。しかし、新型コロナウイルスの危険性に鑑み、メール会議に切り替えざるを得なかった。そして2020年以降のコロナ禍にあっては中国を中心とする研究対象地への渡航が不可能となっただけでなく、海外での調査や海外からの研究者の招聘も実施できなくなった。また国内の図書館・研究機関の利用も制限されており（他大学の研究者の図書館利用を認めないなど）国内での資料調査にも大きな影響がでた。そうしたなか本科学研究会は開催形態をオンライン会議に切り替え、分担者及び外部研究者がそれまで蓄積してきた資料を分析した結果を発表し議論するという形式で活動を継続することに努めた。

以下に期間中の活動記録を掲載する。

【活動記録と成果】

【2019年度】

第1回研究会：2019年7月14日（於上智大学）

報告者：奥村哲氏（首都大学東京名誉教授）「中国基層社会史研究の成果と課題 1950年代の研究の深化のために」

第2回研究会（国際ワークショップ）2019年11月24日（於筑波大学東京キャンパス）

国際ワークショップ「1950年代、中国共産党権力の社会への浸透」

報告者：陳耀煌氏（中央研究院近代史研究所研究員）「1950年代、河南省農村の群衆運動」

報告者：李秉奎氏（北京大学）「1950年《婚姻法》与中国社会心理的變動」

報告者：石島紀之氏（フェリス女学院大学名誉教授）「戦後日本における中国近現代史研究の回顧 革命史観の問題を中心に」

【2020年度】

第1回研究会：2020年7月19日、オンライン開催

報告者：高暁彦氏（東北大学大学院）「中華人民共和国建国初期の民兵と復員軍人：1950 - 1957」

第2回研究会：2020年11月22日、オンライン開催

報告者1：隋藝氏（大連海事大学）「瀋陽市における基層社会統合（1948-1954）」

報告者2：鄭成氏（早稲田大学）「中国建国初期における青年知識人の社会主義への思想転向」

第3回研究会：2021年3月27日、オンライン開催

ワークショップ「人民共和国史の新史料とその研究への導入」

本ワークショップでは人民共和国史に関する史料の公開状況を議論した。

報告者1：金野純氏（学習院女子大学）「公安史研究からみた中共重要歴史文献資料 - オーストラリア国立図書館所蔵資料を中心に」

報告者2：泉谷陽子氏（フェリス女学院大学）「建国初期の大行政区関係資料について 「中共重要歴史文献資料彙編」シリーズの中から」

報告者3：河野正氏（東京大学）「アメリカ国立公文書館概況および中国関係史料について」

【2021年度】

第1回研究会：2021年7月31日、オンライン開催

報告者：加島潤氏（慶應義塾大学）「1950年代中国における綿花流通統制」

第2回研究会：2021年10月30日、オンライン開催

報告者：隋藝氏（大連海事大学）「中華人民共和国初期の伝統、政治と法治 1950年『婚姻法』の実施を中心に」

第3回研究会：2021年11月21日、オンライン開催

報告者：福士由紀氏（東京都立大学）「医療・公衆衛生史から見た1950年代前半」

第4回研究会：2022年3月5日、オンライン開催

報告者：阿南友亮氏（東北大学）「1950年代初頭における中国人民解放軍の復員工作からみえてくること」

第5回研究会：2022年3月21日、オンライン開催

ワークショップ「1950年代、共産党権力の浸透と農村社会」

午前の部（海外からの報告）

報告者：陳耀煌氏（中央研究院近代史研究所研究員）「1950年代中国農村の副業と市場」

午後の部

報告者1：李海燕氏（東京理科大学）「中国少数民族地区における経済的統合：朝鮮族社会における農業集団化を中心に」

報告者2：河野正氏（東京大学）「河北省都市郊外農村の1950年代 食糧、野菜、綿花」

報告者3：山本真氏（筑波大学）「1950年代前半、共産党政権による山林改革と資源管理 華南福建省の事例から」

報告者4：丸田孝志氏（広島大学）「中華人民共和国成立初期の兵役・革命関係者と政治動員」

【2022年度】

第1回研究会：2022年7月16日、オンライン開催

報告者：奥村哲氏（首都大学東京名誉教授）「毛沢東時代の研究に関するいくつかの問題」

第2回研究会：2022年11月19日、オンライン開催

報告者：鄭浩瀾氏（慶應義塾大学）「離婚裁判史料からみる中国農村の女性：1950-1953、江西省永修県」

第3回研究会：2022年1月21日、オンライン開催

報告者：島田美和氏（慶應義塾大学）「アメリカでの資料収集事情-スタンフォード大学フーパー研究所と他大学の東アジア図書館を中心に」

第4回研究会：2023年3月5日、オンライン開催

報告者：丸田孝志氏（広島大学）「模範榮譽軍人張樹義の伝記の成立と変容」

なおワークショップの内容は、先に記述した成果報告書2冊を参照されたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yamamoto Shin	4. 巻 9-1
2. 論文標題 The Maritime Forces and the Local Society of Matsu, Late 1930s-Early 1950s	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立金門大学学報（台湾）	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本真	4. 巻 66 - 3
2. 論文標題 中国農村における社会結合について 田原史起著『草の根の中国 村落ガバナンスと資源循環』から考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 128 - 137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11479/asianstudies.66.3_128	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 福土由紀	4. 巻 1003号
2. 論文標題 感染症をめぐる中国近現代史研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 48 - 56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河野正	4. 巻 第999号
2. 論文標題 河北省における互助組・農業生産合作社組織過程の諸問題 等価・相互利益および遊休労働力を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤肇	4. 巻 1000号
2. 論文標題 中国語圏の電子図書館・データベースと中国近現代史研究 - - アウトリーチ活動を中心にして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真	4. 巻 78 - 1
2. 論文標題 福建省興化地域社会と結社、キリスト教、阿片 民國初期の黄濂の亂に着目 して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 105 - 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真	4. 巻 5
2. 論文標題 書評 蒲豊彦編著・浦島悦子・和仁廉夫 『三竜島事件 日中戦争下の虐殺と沖縄移民』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 華南研究	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三品英憲	4. 巻 70
2. 論文標題 1947年における華北土地改革の急進化と劉少奇	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要 - 人文科学 -	6. 最初と最後の頁 19 ~ 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹川裕史	4. 巻 55 - 4
2. 論文標題 中国復員兵士たちの戦後経験 1950年代上海の事例を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 軍事史学	6. 最初と最後の頁 35 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 丸田孝志
2. 発表標題 共和国成立前後の荣誉軍人与栄軍模範
3. 学会等名 第一屆“身体与 20世紀中国” 検討会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加島潤
2. 発表標題 中国の工業化と社会主義体制 繊維産業を事例として
3. 学会等名 経済史研究会 (東京大学)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福士由紀
2. 発表標題 中国の感染症とナショナリズム
3. 学会等名 WINE緊急オンライン対談「新型コロナウイルス感染症と国民国家 / ナショナリズム」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野正
2. 発表標題 中華人民共和国初期農村謠言考導論
3. 学会等名 第5届「百変民国 戦後中国と東亜変局」青年学者論壇會議（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笹川裕史
2. 発表標題 1950年代中国の徴兵制と社会変容
3. 学会等名 上智史学会月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金野純
2. 発表標題 公安史研究からみた中共重要歴史研究資料－オーストラリア国立図書館所蔵資料を中心に
3. 学会等名 科学研究会 人民共和国史の新史料とその研究への導入：アメリカとオーストラリア所蔵史料について
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 泉谷陽子
2. 発表標題 建国初期の大行政区関係資料について－「中共重要歴史文献資料彙編」シリーズの中から
3. 学会等名 科学研究会 人民共和国史の新史料とその研究への導入：アメリカとオーストラリア所蔵史料について」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野正
2. 発表標題 アメリカ国立公文書館概況および中国関係史料について
3. 学会等名 科学研究会 人民共和国史の新史料とその研究への導入：アメリカとオーストラリア所蔵史料について
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 総体戦下の民衆宣伝、訓練、動員以抗戦時期湖南省事例を中心
3. 学会等名 第二屆抗日戦争史研究新趨向工作坊（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 日中戦争時期、日本の華南調査について－福建・広東を中心に
3. 学会等名 日本華南学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 戦争、動員与地域社会 中日戦争至冷戦時期的金門・馬祖
3. 学会等名 第八屆中国当代史研究工作坊（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大澤肇
2. 発表標題 日本人は中国の教育をどう見てきたのか 民国期を中心に
3. 学会等名 日中関係若手研究者フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹川裕史
2. 発表標題 中国復員兵士たちの戦後体験 上海の事例を中心に
3. 学会等名 日中国際シンポジウム「東アジアにおける戦時動員の位相 その衝撃と遺産 （国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加島潤
2. 発表標題 毛沢東時代の中国の経済制度と政策：現時点からの評価3
3. 学会等名 中国経済経営学会2019年度全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福土由紀
2. 発表標題 健康の売り文句 『申報』掲載の肝油広告の初歩的分析
3. 学会等名 日本健康学会、連携研究セミナー3
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鄭浩瀾
2. 発表標題 Chinese Youth in the 1950s: Daily Life on the Road to Socialism
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 山本真 (編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三栄コピー	5. 総ページ数 71
3. 書名 国際ワークショップ 1950年代、中国共産党権力の社会への浸透	

1. 著者名 山本真分担著 笹川裕史編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 29
3. 書名 現地資料が語る基層社会像--20世紀中葉東アジアの戦争と戦後	

1. 著者名 丸田孝志分担著 石川禎浩編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 24
3. 書名 毛沢東に関する人文学的研究	

1. 著者名 丸田孝志分担著 笹川裕史編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 32
3. 書名 現地資料が語る基層社会像--20世紀中葉東アジアの戦争と戦後	

1. 著者名 丸田孝志分担著 田中仁・江沛・陳鴻図編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 社会科学文献出版社	5. 総ページ数 14
3. 書名 現代中国変動与東亞新格局 第2輯	

1. 著者名 三品英憲分担著 笹川裕史編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 25
3. 書名 現地資料が語る基層社会像--20世紀中葉東アジアの戦争と戦後	

1. 著者名 鄭浩瀾・中兼和津次共編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 毛沢東時代の政治運動と民衆の日常	

1. 著者名 金野純 川島真・21世紀政策研究所編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 16
3. 書名 現代中国を読み解く三要素：経済・テクノロジー・国際関係	

1. 著者名 金野純分担著 笹川裕史編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 22
3. 書名 現地資料が語る基層社会像--20世紀中葉東アジアの戦争と戦後	

1. 著者名 泉谷陽子分担著 笹川裕史編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 34
3. 書名 現地資料が語る基層社会像--20世紀中葉東アジアの戦争と戦後	

1. 著者名 泉谷陽子分担著 鄭浩瀾・中兼和津次共編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 21
3. 書名 毛沢東時代の政治運動と民衆の日常	

1. 著者名 大澤肇分担著 鄭浩瀾・中兼和津次共編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 21
3. 書名 毛沢東時代の政治運動と民衆の日常	

1. 著者名 笹川裕史編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 280
3. 書名 現地資料が語る基層社会像--20世紀中葉東アジアの戦争と戦後	

1. 著者名 山本真分担著 川島真・小嶋華津子編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 238
3. 書名 よくわかる現代中国政治	

1. 著者名 大澤肇分担著 川島真・中村元哉編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 424
3. 書名 中華民国史研究の動向	

1. 著者名 泉谷陽子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 フェリス女学院大学	5. 総ページ数 139
3. 書名 2018年度フェリス女学院大学学内共同研究 ポピュリズムとアート	

1. 著者名 金野純 楊海英編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 中国が世界を動かした「1968」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大澤 肇 (OOSAWA Hajime) (00469636)	中部大学・国際関係学部・准教授 (33910)	
研究分担者	笹川 裕史 (SASAGAWA Yuji) (10196149)	上智大学・文学部・教授 (32621)	
研究分担者	泉谷 陽子 (IZUTANI Yoko) (20773485)	フェリス女学院大学・国際交流学部・准教授 (32711)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鄭 浩瀾 (Zheng Haolan) (40458964)	慶應義塾大学・総合政策学部(藤沢)・准教授 (32612)	
研究分担者	河野 正 (KONO Tadashi) (40709002)	東京大学・社会科学研究所・助教 (12601)	
研究分担者	阿南 友亮 (ANAMI Yusuke) (50365003)	東北大学・法学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	加島 潤 (KAJIMA Jun) (50463899)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	李 海燕 (Li Haiyan) (50708196)	東京理科大学・教養教育研究院 葛飾キャンパス・准教授 (32660)	
研究分担者	三品 英憲 (MISHINA Hdenori) (60511300)	和歌山大学・教育学部・教授 (14701)	
研究分担者	福士 由紀 (FUKUSHI YuKI) (60581288)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	丸田 孝志 (MARUTA Takashi) (70299288)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・教授 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	金野 純 (KONNO Jun) (80553982)	学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授 (32699)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関